

そうじやの光



前橋市立
総社小学校
学校だより 8
令和元年 11月1日

学校教育 具体目標 かしこく 心ゆたかで たくましい子

「挑戦」を続け、1つ1つの経験を「確かな力」に！

11月に入り、今年もあと2ヶ月を残すところとなりました。9月末に行われた運動会の後も、子どもたちは様々な行事や活動に元気いっぱい「挑戦」しています。1つ1つの活動に、その子なりの1つ1つの挑戦があり、成功も失敗もあります。どれもその子にとって今だからこそ出会える「貴重な経験」となります。経験したからこそ得た知識や思いを、次の挑戦へ、その先の未来へ、是非つなげていってほしいと願っています。

自分自身への挑戦「陸上記録会」！

10月17日(木)には、前橋市陸上記録会、28日(月)には、群馬県陸上教室記録会が行われました。以下の選手が総社小の代表としてベストをつくしてくれました。5年生の比企さんが市で3位となり、県大会へ出場し、素晴らしい走りを見せてくれました。立派な成績だったと思います。どの子も競技終了後の笑顔が印象的でした。

【出場選手】

(100m走)

6年 石原 大歳
5年 蛭原 比企 齋藤 渡邊

* 県大会出場 比企

(50mハードル走)

6年 星子 長田 松田
5年 小山あかり

(1000m走) 6年 秋元 都丸
(800m走) 6年 谷津 5年 植松

(走り幅跳び)

6年 設楽 吉原 佐々木 5年 柳澤
(走り高跳び) 6年 福島 出澤 (棄権)

(ソフトボール投げ)

6年 宮下 山崎 5年 山崎 佐藤

(4×100mリレー)

蛭原 比企 秋元 長田 石原 (補) 小山 (補)
松田 植松 齋藤 谷津 山崎 (補) 渡邊 (補)



「市民運動会」で素晴らしい演奏・演技を披露！

10月20日(日)の総社地区市民運動会では、5・6年生が、鼓笛演奏で出場しました。全競技の最初を飾る堂々とした演奏・演技でした。演奏は、運動会の時よりさらに上達し、地域の方々からも感嘆の声をいただきました。

短い時間の中で練習を積み上げ、素晴らしい演奏・演技をとどけてくれた5・6年生を誇りに思います。

今年度最後の鼓笛演奏の舞台は、11月10日(日)の総社秋元公歴史まつりの鼓笛パレード出場です。保護者の方々には、今後ともご協力をいただきますが、よろしく願いいたします。



理科研究発表会で堂々と発表しました！

10月20日に前橋市児童・生徒理科研究発表会が前橋工科大学で開かれました。

本校代表として5年生の隅谷さんと姓原さんが、「身近な酸性・アルカリ性」について発表してくれました。身近な食べ物や調味料、水道水など18種類について、予想を立てた上で、リトマス紙などを使い、酸性かアルカリ性かを調べ、わかりやすくまとめました。今後は「紫キャベツを使って実験してみたい」と、次の研究への抱負も話してくれました。酸性・アルカリ性については6年生の学習内容ですが、疑問や興味をもとに意欲的に研究に取り組み、しっかりした素晴らしい発表内容でした。



本番をめざして…「4年音楽会」

10月31日の午前、前橋市児童生徒音楽会が昌賢学園まえばしホールで開かれ、4年生が代表として出場しました。練習の仕上げとして、29日の音楽集会では、美しい歌声を聞かせてくれました。

本番も緊張はしていましたが、息の合った美しい合唱を発表でき、とても良い経験になったと思います。



最高学年として残り5ヶ月…さらなる活躍を！

6年生は、小学校生活が残り5ヶ月となりました。様々な活動の中で、最高学年としての責任を果たしたり、中学生への準備を始めたりしています。10月23日(水)の就学時健康診断では、学校代表として責任をもって係の仕事をしていました。25日(金)には、六中の合唱コンクールに参加し、中学校の雰囲気を感じてきました。昼休みの総社タイムでも、班長・副班長として縦割り班をまとめていました。6年生の今後の活躍が楽しみです。



就学時健診の手伝い



六中合唱コンクール参加



総社タイムの運営

〈 校長のつぶやき 〉 ～子どもの存在を忘れていないか？～

神戸市の小学校での事件が、毎日のようにセンセーショナルな見出しで取り上げられています。被害教師がカレーを食べさせられる動画が何度も繰り返し放送されるたびに気分が悪くなるのは、自分だけではないと思います。報道されていることが事実だとすれば、今回の事案は、「いじめ」だの「ハラスメント」を超えた、暴行・傷害、強要、器物破損といった犯罪行為であるという意見にも頷かざるを得ません。教育に携わる者は、誰でも「怒り」を通り越して「悲痛」さえ感じるのではないかと思います。

「学校」も1つの職場です。他の職場と同じ様に人間同士のトラブルは当然起こります。でも、他の職場と違うのは、まわりに大切な子どもたちがいるということです。今回の事件で一番感じたのは、「子どもの存在を忘れていないか？」ということです。子どものことを本心に考えていれば、とてもあり得ない言動でしょう。学校でも家庭でも、大人は常に子どもたちの「澄んだ目」で見つめられていることを忘れてはならないと改めて思います。

加害教師への責任追究も大事ですが、被害教師はもちろん、子どもたちの心のケアに十分に力を入れてほしいと願います。また、こんな「あきれた」事件で、現在「教職」に在る者、将来「教職」を志す者の夢や希望が奪われることのないように切に願います。

* このコーナーは、校長の考えを思いつくまま連載します。皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。